

第5回

忘れられない中国滞在エピソード

コンクール

2022年に第5回「忘れられない中国滞在エピソード」コンクールを開催します。誰かに教えてくなるような現地でのとっておきのエピソード、学びと感動のストーリー、国境を超えた心のふれあい、驚くべき体験や新たな発見、心震わせる感動の物語、中国の奥深い魅力、不幸な歴史の記憶への共感等、日中相互理解の促進、両国のウィンウィン関係に寄与するポジティブエネルギーに満ちたオリジナリティーあふれる作品をお寄せ下さい。

受付期間 **2022年5/9(月) - 5/20(金)** 必着

応募資格

- 中国に行ったことのある全ての日本人 (旅行経験だけの方、滞在中の方も歓迎)
- 中国滞在経験の有無に関わらず、全ての日本人が下記の「特別テーマ」で応募できます。

「日中国交正常化50周年を思う」「次の50年・日中交流への提言」

- 本文1900～2000字
- 最優秀賞(中国大使賞)1名 1等賞4名 2等賞10名 3等賞25名
- 団体賞(10作品以上応募した団体に授与)
- 表彰式ならびに出版記念会を開催(11月中国大使館予定)
- 受賞作品集を刊行、最優秀賞(副賞賞金10万円)など各賞の副賞はHP参照

受賞作品集最新刊



毎日新聞 1月12日書評掲載

シリーズ全作トップ10入り!!

Amazonベストセラー (中国の地理・地域研究)



中国で叶えた幸せ 第2回「忘れられない中国滞在エピソード」受賞作品集

段躍中編 日本僑報社 2500円 2019.12.1

読者新聞

評・加藤 徹 (中国文化学者)

中国に行ったことがある日本人を対象とした作文コンクールの受賞作品集である。若者男女がつづる体験談はノンフィクションだが、短編集のような味わいがある。北京へ単身赴任した父が、一時帰国する。父の姿を見て、中学生の娘は「ママ、その後の娘の反抗期は家庭崩壊レベルまで悪化。父は帰国を決意する。時は流れた。」「帰国するから。あそこ、私、中国に行くことになったから。」「上海勤務の辞表を受けた父は中国に愛した。娘は昔の父の気持ちがいなくなった気がした。

人の数だけ人生がある

早稲田大学の院生は回想する。彼女は小4から高校卒業まで大連に単身留学した。中学で、歴史の授業で日中戦争が取り上げられると、仲良しだった同級生から悪口を言われたり、無視されたりするようになった。2011年、高1のとき、東日本大震災が起きた。彼女は学校で赤い羽根の募金活動始めた。「日本のために募金してくれませんか」。結果は「」。上海日本大学の校長となった母は、87歳の老父を待てる。中国語が分からないおじいちゃん、毎朝お母には泣き一人を外に出し、よそ者になる。老人にやさしい中国を離れるとき「おじいちゃん、心がほつりと離れた一言が、胸を打つ」。

日本の私大で研究者としてのフルタイムをこなす。中国の大学に就職する。学校の観劇会を京劇のはまった福岡の高校生は、一目惚れした役者の舞台を見るため21歳で北京に留学する。このほか、オタク文化を中国人と深く語り合う大学生や、「隠し貯金ゲーム」で中国人の共同生活を成功させたシンガーソングライターなど、興味深いエピソードはあふれる。

人の数だけ人生がある。ありのままの中国も、人の数だけある。日本人と中国人のふれあいの多彩さに驚かされる1冊だ。

中国滞在エピソード友の会

中友會

揮毫: 福田康夫 元総理

入会など詳細はHP参照

<http://duan.jp/cn/chuyukai.htm>



主催: 日本僑報社 東京都豊島区西池袋 3-17-15 Tel 03-5956-2808 Mail 50@duan.jp

後援: 中華人民共和国駐日本国大使館、読売新聞社、(公財)日中友好会館、(公社)日中友好協会、(一財)日中文化交流協会、日本国際貿易促進協会、(一財)日中経済協会、日中友好議員連盟、(一社)日中協会 ほか

応募要項、コンクールの詳細情報等はHPをご覧ください。 <http://duan.jp/cn/> 中国滞在エピソード 検索

